

平成28年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした校風を確立する。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、優れた教養と学力をそなえた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操をはぐくみ、自立心のある人の育成を図る。

2 中期的目標

1 教育の質の向上

(1) 授業の質の向上

- ・授業アンケートや公開授業等を活用し、授業の質の向上を目指す。
- 授業アンケートの総体平均73点をめざす。

(2) 4コース体制の充実と見直し事項の検討

- ・平成25年度より始まった4コース制（特別進学Ⅰ、特別進学Ⅱ、進学、保育進学）について、前年度の反省を生かしつつ、コース内容の見直しを含め、教育内容をより良いものにしていく。

(3) 課外活動・クラブ活動の充実

- ・課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率45.6%を50%以上となることを目指す。平成29年度以降は55%以上を目標としたい。

(4) 進学実績の向上

- ・特別進学Ⅰコースを中心に、特別進学Ⅱコースからの合格者も合わせて、関関同立と産近甲龍40名の合格をめざし、平成29年度以降堅持できるようにする。

(5) 学園総合力の向上

- ・併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密にし、学園総合力を向上させる。具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践し、保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施する。
- ・併設幼稚園では、複数回保育実習を実施する。各試みに関しては、実施後検証を行い、年度を重ねる中でより充実させる。

2 組織拡充

- ・教育力の向上と積極的な広報活動により、平成30年度に向けて生徒数1,000名を堅持できるようにする。

3 教育環境の充実

(1) 校内生活および学習環境の整備

- ・平成29年3月高校新校舎竣工に向け、建設中の学習環境が低下しないよう学園内施設を活用し、臨時の特別教室を確保する。また、高校新校舎の設備など詳細を決定する。1号館の改修工事に向けての設計準備、新校舎への速やかな移動を計画実施する。

(2) 日常生活の中で省エネ教育を実践する。

4 地域貢献 社会に必要とされ、愛される学園

(1) 全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。

(2) 地域主催行事へ積極的に参加する。具体的には市民フェスティバル、交通安全啓発運動などへ積極的に参加する。

- ・平成27年度より実施している地域連携プログラム「歴史・科学の市民講座」、「卓球・バレーボール教室」(通年)を地域の子どもたちが多数参加できるように継続して実施する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	学校関係者評価
1 教育力の質の向上	(1) 授業の質の向上	(1)年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、考査結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・教科主体で公開授業、その後の反省会を行う。 ・授業アンケート（7月：1学期期末考査後実施）の結果を基に、各教員、教科内で検証、今後の対策を練る。 ・満足度調査（10月：2学期中間考査後実施）については、分析の上、職員会議で報告。関係部署で検証の上、今後の課題を検討、全体で共有する。	(1)授業アンケートの総体平均値が73点となること。	(1)授業アンケートでの平均が71.5点（昨年度72点）、目標値に1.5点届かなかった。項目別の得点を見ると73点を上回っているのは「話し方」や「生徒と教員の関係（先生は熱意をもって授業を行い、丁寧に応じてくれる）」があり、一定の評価を得ている。（△）	概ね良好と評価できるが、今後更なる努力を期待する。（○）
	(2) 4コース体制の充実と見直し事項の検討	(2)学年会議、コース会議を通じて、コース内での取り組み内容を吟味する。実施後、見直し検討に向け、課題を見つける。	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の充実度」に関する質問の肯定的回答率がそれぞれ60%以上であること。	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の充実度」に関する質問の肯定的回答率は、「充実度」59.7%（昨年度55.9%）であった。コース内容をさらに充実するよう検証を実施したい。（×）	日々充実していると実感できる学校生活を期待する。（△）
	(3) 課外活動・クラブ活動の充実	(3)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を、回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・課外活動についても、他の年間行事を踏まえた上で、教務、生徒会等の部署で検討の上、充実させる。	(3)クラブ入部率50%以上であること。	(3)第71回大阪高等学校総合体育大会女子総合成績第6位（昨年度7位）で表彰を受けた。文化系、運動系共に活発に活動し、近畿大会出場などの結果を残した。しかし、クラブ入部率は、43.4%で、昨年度より2.2%減少した。（△）	活発な課外活動、クラブ活動の活性化を望む。（○）
	(4) 進学実績の向上	(4)進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立と産近甲龍以上40名以上の合格。 ・併設大学・短大への進学者100名以上。	(4)進路決定率95.9%（昨年度96.9%）。（△） ・関関同立と産近甲龍以上25名合格（昨年度39名）。（△） ・併設大学・短大への進学者数102名（昨年度90名）。（○）	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。（△）
	(5) 学園総合力の向上	(5)学園内大学・短大・幼稚園との連携に関する担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる（併設校の入試説明会、保育進学コース授業など）。	(5)実施内容と生徒の満足度を基準とする。	(5)内容、生徒の感想とも概ね良好。（○）	良好と評価できる。（○）
2 組織拡充	組織拡充	・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会のプランを策定し、全教職員で内容を共有することで、学校運営への参画の意識を一つにする。	・学校・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度（2699名）を上回ること。 ・新入生350名、生徒総数1000名。	・今年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2173人で昨年度比526人減少した。（△） ・今年度当初の生徒総数は1111名で、昨年度の1060名より51名増（新入生：427名入学）となった。（○） ・今年度の転退学率は2.7%で、昨年度より0.5%後退した。（△）	良好と評価できる。（○）
3 教育環境の充実	校内生活および学習環境の整備	・3月に職員室・事務室など諸室の新校舎への引越し作業実施。また、新校舎への新機の搬入、エレベーターなど利用マニュアルの設定、避難経路の確認など。 ・3月高校1号館の改修工事の開始。学園内の施設を活用し、臨時教室の設置運用など。 ・日頃から「ものを大切にする意識」、「省エネの意識」を、教職員、生徒の間で話題にする。	・計画事項を無事完了すること。	・計画事項を無事完了。（○）	良好と評価できる。（○）
4 地域貢献	(1) 美化活動の実践	(1)生徒会美化委員会が立案、主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を、今年度も実施する。1回目は全校生徒（希望者）対象で6月中旬実施、2回目は1、2年生全生徒対象で10月下旬を予定する。	(1)計画通り実施する。	(1)計画通り実施できたが、次年度はさらに良いものを目指し、検証が必要。（○）	良好と評価できる。（○）
	(2) 地域行事への参画	(2)本校教員が地域と連携し、市民講座やスポーツ教室を実施する。 ・歴史・科学の市民講座を実施する。 ・卓球（年間20回実施）、バレーボール（年間26回実施）のスポーツ教室を実施する。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。 ・地域の防災マップ作りへ参加する。	(2)予定通り参加する。	(2)予定通り参加。（○） 歴史講座18名、科学講座17名参加。 スポーツ教室は卓球18名、バレーボール41名参加。 市民フェスティバルに参加。 防災マップ作りへ2名参加。	良好と評価できる。（○）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析

【教育活動等】

(1) 学習指導においては

- ・生徒による「授業アンケート（平成28年7月実施）」の項目別結果では、
 - ① 「【話し方】先生の話し方は聞き取りやすい」74.6点（生徒）
 - ② 「【関係】先生は熱意をもって授業を行い、生徒の状況をよく理解して丁寧に応じてくれる」73.2点（生徒）
 - ③ 「【学習効果】この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できた」67.4点（生徒）
- ・「学校教育自己診断（アンケート）保護者・教職員対象」の問いに対して、肯定的な回答をした割合は、
 - ④ 「子どもによると授業はわかりやすいと言っている」との問いに対し、80.0%（保護者）
 - ⑤ 「子どもによるとクラスの生徒は授業を真面目に受けていると言っている」との問いに対し、86.7%（保護者）
 - ⑥ 「公開授業等の「授業研究」を行い、教科会議等通じて授業のスキルアップを図っている」36.8%（教職員）
 - ⑦ 「子どもは家庭で積極的に学習に取り組んでいる」60.0%（保護者）
- ・これらを総合すると、質問①②④⑤など教員はより「わかりやすい授業」を実践し、生徒も満足していることがわかる。一方では、「わかりやすい」とは感じながらも実力や技術の向上をあまり実感していないようだ。
- ・教科会議を通じて教員一人ひとりが、スキルアップをして、難しい内容をよりわかりやすく指導し、生徒に実力をつける指導を実践する。
- ・来年度は、すべての教室に電子黒板機能付きのプロジェクターを設置する。学校全体でICT機器を活用しより「わかりやすい授業」の実践を進めていきたい。
- ・家庭学習の定着を図るために、「各教科から計画的に課題を与える」「学習意欲の向上のための個人面談などきめ細かな指導をする」なども計画的に進めていきたい。

(2) 生徒指導においては

- ・「学校教育自己診断（アンケート）保護者・教職員対象」の問いに対して、肯定的な回答をした割合は、
 - ⑧ 「生徒指導において、家庭と緊密な連携ができています」との問いに対し、100%（保護者）91.2%（教職員）
 - ⑨ 「問題行動防止のための早期指導（個人面談、HR指導、初期対応など）に学校全体で取り組んでいる」100%（保護者）73.7%（教職員）
- ・個人面談やHR指導など生徒一人ひとりを大切に「面倒見のいい」教育が実践でき、学年・コースなど学校全体で情報を共有し、取り組んでいることが、保護者からも高い評価と信頼を得ている。この伝統的な取り組みをこつこつと地道に続けていきたい。

【課外活動・クラブ活動等】

- ・「学校教育自己診断（アンケート）保護者・教職員対象」の問いに対して、肯定的な回答をした割合は、
 - ⑩ 「部活動は全般にわたって活発に行われている」との問いに対し、86.7%（保護者）
 - ⑪ 「クラブ顧問は日々の活動に対し、十分な指導を行っている」との問いに対し、93.3%（保護者）84.2%（教職員）
 - ⑫ 「生徒会活動は活発に行われている」100%（保護者）68.4%（教職員）
 - ⑬ 「学校行事は生徒にとって魅力あるものとなっている」86.7%（保護者）52.6%（教職員）
- ・高校生活満足度調査（平成28年10月実施）では、今年度のクラブ入部率は、43.4%で、昨年度より2.2%減少したが、⑩⑪⑫⑬からもわかるように、文化系も運動系も試合や大会に積極的に参加するなどクラブ活動は活発に行われている。生徒会活動や学校行事については、検討を加える必要がある。

【その他】

- ・ホームページ担当を設け、行事や取り組み内容を個人ではなく、計画的・組織的に載せるように改善した結果、ホームページでの情報公開が昨年度より大幅に進んだ。保護者や外部に対しても日々の学校生活を定期的に発信できている。

学校評価委員会からの意見

- ・今年度も多くの項目で評価できるものがあり、学校自己評価についても問題なしとなった。
- ・服装面で大きな乱れは少なくなり、挨拶する生徒が多くなった。しかし、クラブによっては立ち止まって相手の目を見て元気に挨拶するところもあれば、少し声の小さいクラブもある。一般生徒も挨拶できる生徒とそうでない生徒がいるとのご意見を頂き、全員が気持ちよく挨拶ができるように今まで以上に教員の方から挨拶するようにしていきたいと反省した。
- ・地域住民の委員からは、自転車の2人乗りや危険な運転は少なくなったが、在籍生徒数が増えた影響からか、登下校時に広がり道路を占有してしまうことが多々見受けられる。毎年交通安全教育を実施しているが、さらなるマナー向上の啓発が必要であると実感した。
- ・地域の子どもたちが参加する、歴史・理科の市民講座や卓球・バレーボールのスポーツ教室の取り組みや美化ボランティアに対する評価は大きかった。
- ・生徒収容に関しては、400名以上の入学生を迎えることができたことを評価され、また、在籍総数1000名以上を堅持できていることも評価された。
- ・公立に進学するよりも難関大学に合格ができ、希望がかなわない場合でも、受け皿として魅力的な併設大学・短大がある高校として地域に定着してきたが、近年、大学の難易度が下がってきたので、高校でより生徒の実力をつける必要があるとのご意見を頂いた。また、忙しい先生方がスキルアップできるよう時間をどう捻出するかが課題であるとの意見も頂いた。
- ・本校の教職員が生徒一人ひとりを大切に、何より「面倒見のいい」教育を継続して実践していることを高く評価して頂いた。

以上の意見を受けて、次年度に向け今回の提言や意見、課題を教職員全員が真摯に受け止め、保護者や地域の方にも協力を求めながら、目的達成に向け努力していきたいと決意を新たにしました。